

第54回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会
予 防 接 種 基 本 方 針 部 会

資料2

2023（令和5）年6月14日

予防接種におけるコミュニケーションについて

予防接種基本計画の記載（予防接種におけるコミュニケーションについて）

予防接種に関する基本的な計画（平成26年厚生労働省告示第121号）

第一 予防接種に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関する基本的な方向

一 予防接種に関する施策の基本的理念

予防接種は、法第二条第一項において「疾病に対して免疫の効果を得させるため、疾病の予防に有効であることが確認されているワクチンを、人体に注射し、又は接種すること」と定義されている。

予防接種は、疾病予防という公衆衛生の観点及び個人の健康保持の観点から、社会及び国民に大きな利益をもたらしてきた一方、極めてまれではあるが不可避免的に生ずる予防接種の副反応による健康被害をもたらしてきた。

このような事実についての十分な認識を踏まえ、**国民の予防接種及びワクチンに関する理解と認識を前提**として、我が国の予防接種施策の基本的な理念は「予防接種・ワクチンで防げる疾病は予防すること」とし、また、国は、予防接種施策の推進に当たっては、感染症の発生及びまん延の予防の効果並びに副反応による健康被害のリスクについて、利用可能な疫学情報を含めた科学的根拠を基に比較衡量することとする。

第二 国、地方公共団体その他関係者の予防接種に関する役割分担に関する事項

一 国の役割

法第二十三条の規定に基づき、**予防接種に関する啓発及び知識の普及**、予防接種の研究開発の推進及びワクチンの供給の確保等必要な措置、予防接種事業に従事する者に対する研修の実施等必要な措置並びに予防接種の有効性及び安全性の向上を図るために必要な調査及び研究について着実な実施を図るとともに、副反応報告制度の運用及び健康被害の救済についても、円滑な運用を行う。

(中略)

加えて、**定期の予防接種の実施主体である市町村が、住民への情報提供を含め、接種に関する一連の事務を円滑に実施できるよう、関係者と調整を図る**とともに、定期の予防接種の対象疾病、使用ワクチン及び接種回数の見直しの検討を含めて、必要な財源の捻出及び確保等に努める必要がある。

二 都道府県の役割

都道府県は、予防接種に関して、医師会等の関係団体との連携、管内の市町村間の広域的な連携の支援、国との連絡調整並びに保健所及び地方衛生研究所の機能の強化等に取り組む必要がある。(後略)

予防接種基本計画の記載（予防接種におけるコミュニケーションについて）

予防接種に関する基本的な計画（平成26年厚生労働省告示第121号）

第二 国、地方公共団体その他関係者の予防接種に関する役割分担に関する事項

三 市町村の役割

市町村は、定期の予防接種の実施主体として、医師会等の関係団体との連携の下に、適正かつ効率的な予防接種の実施、健康被害の救済及び住民への情報提供等を行う。

四 医療関係者の役割

医療関係者は、適正かつ効率的な予防接種の実施及び医学的管理、入念な予診、接種事故の防止、被接種者及びその保護者へのワクチンの有効性及び安全性等に関する情報提供、予防接種の安全性の向上のための副反応報告制度の円滑な運用、予防接種の有効性の評価に資する感染症発生动向調査の実施への協力並びにワクチンの最新知見の習得等に努める必要がある。

六 被接種者及びその保護者の役割

被接種者及びその保護者は、予防接種による感染症予防の効果及び副反応のリスクの双方に関する正しい知識を持った上で自らの意思で接種することについて、十分に認識し、理解する必要がある。

七 その他関係者の役割

報道機関、教育関係者及び各関係学会等は、広く国民が予防接種による感染症予防の効果及び副反応のリスク等の情報について正しい知識を得られるよう、普及啓発に努めることが期待される。

第三 予防接種に関する施策の総合的かつ計画的な推進に係る目標に関する事項

五 普及啓発の推進及び広報活動の充実

国は、被接種者及びその保護者等に対し、感染症に関する情報、予防接種の効果、ワクチンの有効性及び安全性、副反応のリスク及び副反応を防止するための注意事項について、普及啓発の推進を図る。

具体的には、リーフレット等の作成や報道機関と連携した広報等を積極的に行うことにより予防接種に対する国民の理解の醸成を図る。その際、関係者は、必要に応じて協力をするよう努める。

また、国は、被接種者及びその保護者等にとって分かりやすい情報提供の在り方並びに普及啓発及び広報活動の有効性の検討もあわせて行う。

各関係者のこれまでの取組

- 予防接種基本計画には、予防接種施策に関係する各関係者が、それぞれの立場からコミュニケーションを図っていく必要性が示されている。
- 各関係者は、基本計画を踏まえ、それぞれのツールを用いつつ、予防接種施策の推進に向けて情報発信等を工夫してきた。

主なコミュニケーションの方法

国	<ul style="list-style-type: none">Webサイト（予防接種情報、有効性・安全性）特設のページとQ&Aサイト（新型コロナワクチン）による情報提供広報資材提供事務連絡、手引き等	<ul style="list-style-type: none">SNS（Twitter、Facebook、LINE）等による国民向け情報発信自治体職員向け説明会・研修医療機関向け説明会医師向け動画(接種制度、接種方法)
都道府県	<ul style="list-style-type: none">Webサイト（予防接種情報、有効性・安全性）県民向け情報提供若年者など、特定の対象者に重点を置いた広域的な情報提供	<ul style="list-style-type: none">医療機関との連絡・調整相談窓口の設置
市町村	<ul style="list-style-type: none">接種対象者への予診票等の送付広報誌等・Webサイト（予防接種情報）市民向け情報提供ポスター・リーフレットの設置・配布	<ul style="list-style-type: none">医療機関との連絡・調整相談窓口の設置
医療機関	<ul style="list-style-type: none">接種希望者等へのインフォームドコンセント院内でのポスター掲示リーフレットの設置・配布	

国における取組の例(新型コロナワクチン)

○新型コロナワクチンの接種に際しては、国民等がワクチンについて求めている情報を勘案したリスクコミュニケーションの観点も念頭に、特に重点的な周知・広報を行った。

広報・リスクコミュニケーションに当たってのワクチンを取り巻く状況

- 新型コロナワクチンについては、
 - 新規に開発されたワクチンであり、有効性・安全性について特に丁寧な説明が求められた。
 - 国民の関心も高く、正しい情報に基づいて接種の判断を行える環境の整備が必要であった。
 - 様々な媒体等において、「ワクチンの接種が原因で多くの方が亡くなっているのではないか」といった、国民のワクチンに対する心配を背景とした様々な言説が存在した。
 - 背景には、科学的に十分な検証がなされていない情報や、科学的知見の一部の切り取りや不正確な引用等の情報などが存在。科学的に誤った受け取られ方がなされうる情報の拡散がみられた。

状況を踏まえた対応

- ワクチンに関する情報発信に当たっては、国民のワクチンに対する認識や、国民等が求めている情報を勘案した対応が重要。
- こうしたことから、
 - 自治体の接種券送付時に同封できるよう、各ワクチンについて有効性・安全性をまとめた「説明書」を作成
 - 各接種のタイミングにおいて、接種対象者に応じたリーフレットの作成
 - 効果や副反応をはじめ国民の関心が高いものについて、Q&Aサイトを設置し分かりやすい内容で丁寧に説明
 - 様々な媒体等から、科学的に正確ではない受け取り方がなされうる情報を把握し、そうした情報に対して、Q&Aサイトで科学的な知見に基づく正しい情報を解説する等の取組を特に行ってきた。
- また、ホームページについても新型コロナワクチンに特化したページを作成し、国民、自治体、医療関係者にとって必要な情報にアクセスしやすいように情報を整理し、随時更新を行っている。

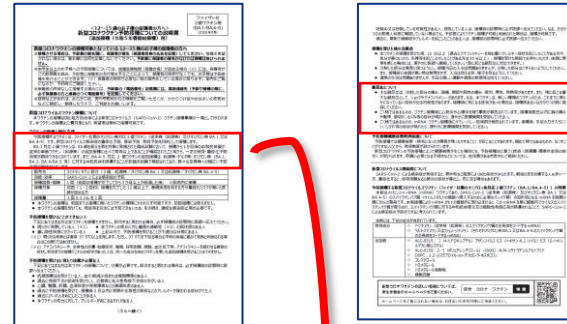
有効性・安全性に係る情報提供（新型コロナウイルスワクチン）

○ワクチン毎のリーフレット・説明書を作成し、自治体が接種券を送付する際に活用いただいているほか、厚生労働省HPにも掲載している。

○リーフレット



○説明書



オミクロン株対応2価ワクチンの効果

■従来型ワクチンを上回るオミクロン株への効果が期待されています。

オミクロン株対応ワクチンの追加接種には、オミクロン株の成分が含まれるため、従来型ワクチンと比較した場合、オミクロン株に対する重症化予防効果、感染予防効果、発症予防効果それぞれに寄与する免疫をより強く誘導します。

そのため、オミクロン株に対して、従来型ワクチンを上回る**重症化予防効果**とともに、**持続期間が短い可能性があるものの、感染予防効果や発症予防効果も期待されています。**

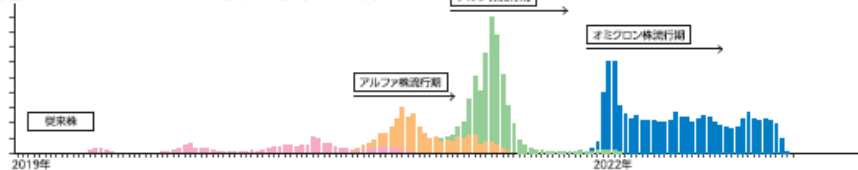
■2価のワクチンであることにより、様々な新型コロナウイルスに反応します。

異なる2種類の抗原があることにより、誘導される免疫も、より多様な新型コロナウイルスに反応すると考えられます。

そのため、**今後の変異株に対して有効である可能性**がより高いことが期待されています。

(※4)2022年8月現在の科学的知見を踏まえた専門家の議論をもとに記載しています。今後、知見の蓄積等によりアップデートされる可能性があります。
出典：新型コロナウイルスの製造過程に関する検討会 第二次取りまとめ

〈日本における新型コロナウイルス変異株の変遷（イメージ）〉



オミクロン株対応2価ワクチンの安全性

ファイザー社及びモデルナ社の2価ワクチンの薬事承認において、どちらのワクチンも従来型ワクチンとおおむね同様の症状が見られました。

〈接種後7日間に現れた症状〉

発調割合	ファイザー社	症状	モデルナ社
50%以上	注射部位疼痛	注射部位疼痛、疲労	
10~50%	疲労、筋肉痛、頭痛、悪寒、関節痛	頭痛、筋肉痛、関節痛、リンパ節炎、悪寒、悪心・嘔吐	
1~10%	下痢、発赤、腫脹、発熱、嘔吐	紅斑・発赤、腫脹・便秘、発熱	

出典：特許情報提供の報告書より改題

・有効性

ワクチンの効果と投与方法

今回接種するワクチンは、ファイザー社製のオミクロン株対応2価ワクチン（従来株（起源株）及びオミクロン株 BA.1 又は BA.4-5）です。新型コロナウイルス感染症の重症化予防、感染予防、発症予防を目的として接種します。

BA.1 対応2価ワクチンは、55歳を超える者を対象に実施された臨床試験において、接種から1か月後の中和抗体価が、従来の単価ワクチン（起源株）の追加接種に比べて同等以上であることが確認されたこと等から、一定の発症・重症化予防効果が期待できるとされています。また、BA.4-5 対応2価ワクチンの追加接種は、起源株・デルタ株・オミクロン株（BA.1、BA.2、BA.4/BA.5 等）に対する中和抗体を誘導することが非臨床試験で確認されており、様々な変異株への幅広い予防効果が期待されています。

・安全性

副反応について

- 主な副反応は、注射した部分の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等があります。また、稀に起こる重篤な副反応として、ショックやアナフィラキシーがあります。なお、本ワクチンは、新しい種類のワクチンのため、これまでに明らかになっていない症状が出る可能性があります。接種後に気になる症状があった場合は、接種医あるいはかかりつけ医に相談してください。
- ごく稀ではあるものの、ワクチン接種後に心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。接種後数日以内に胸の痛みや動悸、息切れ、むくみ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。
- ごく稀ではあるものの、mRNA ワクチン接種後にギラン・バレー症候群が報告されています。接種後、手足の力が入りにくい、しびれ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。

リーフレットによる情報提供（新型コロナウイルスワクチン）

○新型コロナウイルスワクチン接種の対象者やタイミング等の変更の際には、リーフレット等により周知を行ってきた。

○令和5年春開始接種

厚生労働省 新型コロナウイルスワクチン 令和5年春開始接種についてのお知らせ 第2版(2023年4月26日)

令和5年春開始接種では、重症化リスクが高い方(高齢者、基礎疾患を有する方)にワクチンを接種いただけます。

春開始接種の対象ではない一般の方への追加接種は5月7日で終了し、その後は今年の秋(令和5年秋開始接種)を予定しています。

令和5年度接種の対象となる方

令和5年春開始接種(5-8月)	対象となる方	別称	令和5年秋開始接種(9-12月)	対象となる方	別称
高齢者(65歳以上)	○	あり	高齢者(65歳以上)	○	あり
基礎疾患を有する方(5-64歳)	○	あり	基礎疾患を有する方(5-64歳)	○	あり
医療従事者・介護従事者等	○	なし	医療従事者・介護従事者等	○	なし
上記以外(5歳以上)	—	なし	上記以外(5歳以上)	○	なし

【基礎疾患を有する方】について

令和5年度の接種における「基礎疾患を有する方」の範囲については、国の審議会において、国際的な科学的知見に基づいて検討され、以下とすることがされています。

- 慢性の心臓、腎臓、呼吸器、肝臓の病気がある方 ・ 病気や治療によって免疫の機能が低下している方
- 神経系や神経筋疾患を原因として、身体機能が低下している方
- 染色体異常のある方 ・ 血液の病気のある方
- 代謝性疾患のある方 ・ 免疫の病気のある方(18歳以上で免疫欠乏性疾患の方は除く)
- その他、新型コロナウイルスにかかった場合に重症化するおそれがある方

18歳以上

- インスリンや飲み薬で治療中又は合併症のある糖尿病の方 ・ 聴覚障害者
- 重い精神疾患がある方 ・ 知的障害がある方 ・ BMI(BMI=体重(kg)/身長(m)²)が30以上の方

18歳未満

- 代謝性疾患がある方 ・ 悪性腫瘍がある方
- 内分泌疾患がある方 ・ 消化器疾患がある方

○令和5年春開始接種（5歳-11歳）

厚生労働省 5歳から11歳のお子様への追加接種 第2版(2023年4月26日)

3月8日から、オミクロン株対応2価ワクチンになりました。

○オミクロン株対応2価ワクチンは、少なくとも1-2回目接種を完了した5-11歳のお子様を対象です。
○最後の接種から3か月以上、間隔をあけて接種します。ファイザー社の5-11歳用のオミクロン株対応2価ワクチンを使用します。(※)

2021年度 2022年度 2023年度

3月8日開始 5月8日-8月 9月以降

令和5年春開始接種

基礎疾患を有する方(5-11歳)はさらに1回追加接種が可能
オミクロン株対応2価ワクチン

初回接種(1-2回目接種)を完了した5歳以上の方
追加接種(オミクロン株対応2価ワクチン)

初回接種(1-2回目接種)を完了した5歳未満の方
追加接種(従来の1価ワクチン)

5歳から11歳の「基礎疾患を有する方」について

- 慢性の心臓、腎臓、呼吸器、肝臓の病気がある方 ・ 病気や治療によって免疫の機能が低下している方
- 神経系や神経筋疾患を原因として、身体機能が低下している方
- 染色体異常のある方 ・ 血液の病気のある方
- 代謝性疾患がある方 ・ 免疫の病気のある方
- その他、新型コロナウイルスにかかった場合に重症化するおそれがある方

Q. 子どものオミクロン株対応2価ワクチンは、海外で使用されていますか？

A. 子どものオミクロン株対応2価ワクチンは米国ですで使用されており、安全上の大きな問題は無いと報告されています。米国においては、2022年10月から子どもにも使用されており、米国CDC(疾病管理センター)の報告によると、80%以上は接種された実績に基づいて、安全性の評価が行われています。米国で接種を受けた方々などの報告に基づくデータによると、発熱は約19%、疲労感は約30%、頭痛は約20%の方に現れたとされています。また、医師等による報告に基づくデータによると、接種後の死亡や重篤な有害事象は認められていません。

○ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要ですが、5歳から11歳のお子様のワクチン接種には、保護者の同意と立ち会いが必要です。ワクチンを受ける際には、感染予防の影響と副作用のリスクの両方について、正しい知識を持っていただく上で、ご本人の意思に基づいて接種を判断いただきますようお願いいたします。受け取る方の同意なく接種が行われることはありません。

○予防接種健康被害救済制度があります。予防接種で健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではありますが、なくすことではございません。救済制度が設けられています。申請に必要な手続きなどについては、厚生労働省ホームページでご確認ください。

新設の新型コロナウイルスの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの新型コロナウイルスについてページをご覧ください。

厚生労働省 ホームページ

厚生 コロナワクチン 検索

お問合せ先

○令和4年秋開始接種の終了

厚生労働省 (新型コロナウイルスワクチン接種) 2023年4月24日

オミクロン株対応2価ワクチンの接種がまだお済みでない方へ

オミクロン株対応2価ワクチンの一般の方への接種は**5月7日で終了します。**

現時点での情報

1. 全国の新規感染者数は、**緩やかな増加傾向となっています。**

新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボードにおける専門家からの資料では、今後、再び感染が流行する可能性が指摘されています。オミクロン株対応2価ワクチンの接種がまだお済みでない方は、今のうちに接種をご検討ください。

2. 一般の方(※)へのオミクロン株対応2価ワクチンの接種は、**5月7日までです。** (※)令和5年春開始接種の対象ではない方(5歳以上)。

・5月8日以降の接種(令和5年春開始接種)の対象者は、高齢者(65歳以上)、基礎疾患を有する方(5-64歳)、医療従事者等です。
・春接種の対象ではない一般の方(5歳以上)の接種は、今年の秋を予定しています。

■日本国内の新規感染者数(1日ごと)

■令和5年度の接種の対象となる方

令和5年春開始接種(5-8月)	○
高齢者(65歳以上)	○
基礎疾患を有する方(5-64歳)	○
医療従事者・介護従事者等	○
上記以外(5歳以上)	×

■令和5年秋開始接種(9-12月)

令和5年秋開始接種(9-12月)	○
高齢者(65歳以上)	○
基礎疾患を有する方(5-64歳)	○
医療従事者・介護従事者等	○
上記以外(5歳以上)	○

情報にアクセスしやすいホームページの作成（新型コロナワクチン）

- 新型コロナワクチンに関する情報を体系的に整理し、トピック毎にまとめるとともに、国民、医療従事者、自治体の方等、情報を求める様々な主体に配慮して、必要な情報へ円滑にアクセスできるよう工夫。
- 情報提供資材については専用ページを作成して集積させ、ニーズに合わせて分類をして掲載。
- 在留外国人向け多言語資材を作成し、必要に応じて自治体や関係団体がダウンロードできるように整理。

ホームページ

健康・医療

新型コロナワクチンについて

- 皆さまへのお知らせ
- 職域接種について
- 自治体・医療機関・その他関係機関向けのお知らせ
- 接種の実績と供給の見込み
- 施策関連情報

令和5年春開始接種

小児接種（5～11歳）

乳幼児接種（生後6か月～4歳）

Q & A

新型コロナワクチンの有効性・安全性

COVID-19 Vaccines (English)

コロナワクチンナビ
新型コロナワクチンの、お近くの接種会場を探せます。会場ごとの予約受付状況もご案内しています。



開発状況

国内・海外のワクチン開発の取り組みや進捗

有効性・安全性について

ワクチンごとの詳しい情報、安全性・有効性の評価、海外情報へのリンク

予防接種証明書

新型コロナワクチン接種の事実を公的に証明する接種

わかりやすい資料

ワクチンの説明、接種後の注意についてのリーフレット

● 特設サイトへのリンク



ホームページ内 トピックスの例

● ワクチン接種の手続き

健康・医療

【追加接種】令和5年春開始接種についてのお知らせ

- 令和5年春開始接種について

小児接種（5～11歳）

ファイザー社の4ミクロン特製2価ワクチン

モデルナ社の4ミクロン特製2価ワクチン

新型コロナワクチンQ & A

都田社の新型コロナワクチン



令和5年（2023年）5月8日から開始された、「令和5年春開始接種」の接種対象や接種を受ける方法など、新型コロナワクチン接種の情報をお届けします。

- 情報提供資材や予防接種の証明書などは、こちらをご覧ください。
- 副反応についての情報は、こちらをご覧ください。

● 情報提供資材（多言語を含む）リーフレット、説明書等

情報提供資材

新型コロナワクチン 令和5年春開始接種についてのお知らせ

新型コロナワクチン 令和5年春開始接種についてのお知らせ（第2版（2023年4月26日）） [PDF: 1.1M]
 【画像】3～11歳のお子様の接種スケジュール（令和5年4月26日）

● 科学的な知見（有効性・安全性）

健康・医療

新型コロナワクチンの有効性・安全性について

- 新型コロナワクチンの開発について
- ワクチンごとの情報
- 新しい情報
- 安全性の評価について
- 有効性の詳細について
- 海外情報へのリンク

新型コロナワクチンの有効性・安全性に関する情報や、海外の情報をお届けします。

新型コロナワクチンの副反応について

新型コロナワクチンの接種後に、発熱や痛み、接種部位の症状が起きた時の対応等については、こちらをご覧ください。

● 医療機関向け情報、自治体向け情報

健康・医療

新型コロナワクチンの接種を行う医療機関へのお知らせ

- 実施に関する手引き
- 接種委託医療機関となるには
- 接種の準備
- 接種の実施
- 副反応対応（報告のお願い）
- 接種証明書発行・医療従事者への支援
- 関連資料

新型コロナワクチンの接種を行う医療機関や、接種に協力する方への案内です。

新型コロナワクチンに関する自治体向け通知・事務連絡等

- 自治体向け手引き
- 自治体向け説明会
- 接種に関わる人材確保
- 通知、事務連絡
- 関係法令

新型コロナワクチンについて、自治体の皆さまに提供する情報をまとめたページです。

自治体向け手引き

情報を分かりやすく伝えるための特設サイトの開設（新型コロナワクチン）

- 新型コロナワクチンに関するQ&Aの特設サイトを開設。操作性と視認性を上げ、必要な情報へ円滑にアクセスできるよう工夫。
- 国民の関心が高いものについてQ&A形式で分かりやすく丁寧に説明し、専門家によるコラムも掲載。
- 科学的知見に基づく適切な情報を幅広い層に届けるため、TwitterとFacebookでの情報発信を実施し、SNSから特設サイトへの流入を図る。

○特設サイト「新型コロナワクチンQ&A」

●特設サイトへのトップページ



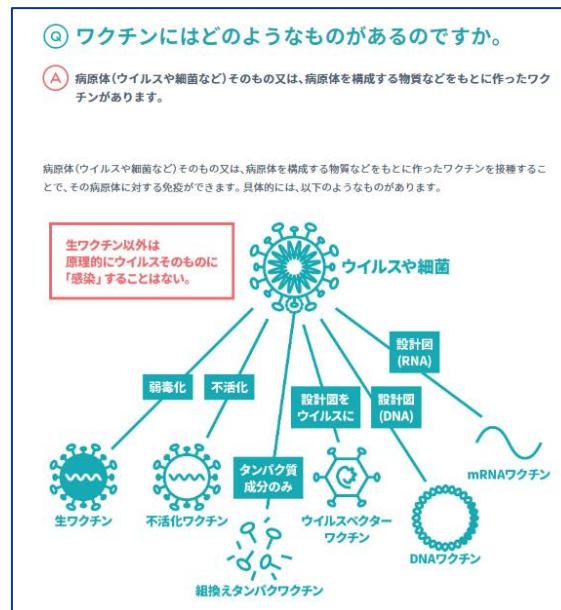
携帯端末でも閲覧しやすいよう、トップページでは左右に一周するカルーセルバナーで掲載内容を表示。

●カテゴリ別アイコン



優しい色合いと柔らかくシンプルな線で描かれたイラストを採用。

●Q&Aページ



シンプルで分かりやすい説明と、視覚的に伝えるイラストや、科学的な根拠に基づく情報を掲載。

科学的に正確でない受け取り方がなされうる情報への対策及び時宜的な情報周知（新型コロナワクチン）

- 様々な媒体から特に影響のある典型的な科学的に正確でない受け取り方がなされうる情報を把握。
- 厚生労働省ホームページのトップページで非科学的な内容や誤った情報について全般的な注意喚起を実施。
- 新型コロナワクチンQ&Aサイトや、SNS(Twitter、Facebook、LINE)において、科学的に正確でない受け取り方がなされうる情報に対して科学的な知見に基づく正しい情報を掲載・周知。

科学的に正確でない受け取り方がなされうる情報について 厚生労働省HPのトップにおいて注意喚起

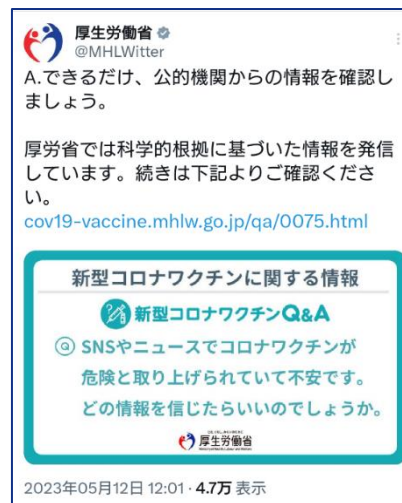


新型コロナワクチンQ&Aサイト

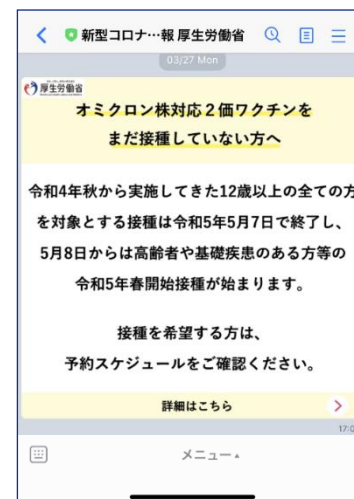


OSNS (Twitter、LINE)

Twitter



LINE



SNSでの発信内容は、基本的に新型コロナワクチンQ&Aサイトから抜粋

Q 新型コロナワクチンの接種が原因で多くの方が亡くなっているというのは本当ですか。

A 「ワクチンを接種した後に亡くなった」ということは、必ずしも「ワクチンが原因で亡くなった」ということではありません。接種後の死亡事例は報告されていますが、現時点で、引き続きワクチンの接種体制に影響を与える重大な懸念は認められないとされています。

国における取組（新型コロナウイルス以外）

○新型コロナウイルス感染症の流行以前からの国における取組として、予防接種により予防できる疾患や、ワクチンに関するリーフレット、ポスター、動画等の作成・配布により周知活動を行ってきた。

○リーフレット

【今日このワクチンシリーズ】

Hib、小児肺炎球菌、DPT-I PV、BCG、MR（麻しん・風しん）、日本脳炎、水痘 等

【その他（疾病毎）】

インフルエンザ、BCG、日本脳炎、麻しん、高齢者肺炎球菌、ヒトパピローマウイルス感染症、ポリオ、風しん、B型肝炎



○ポスター

インフルエンザ、BCG、麻しん、風しん



○動画等

インフルエンザ、風しん



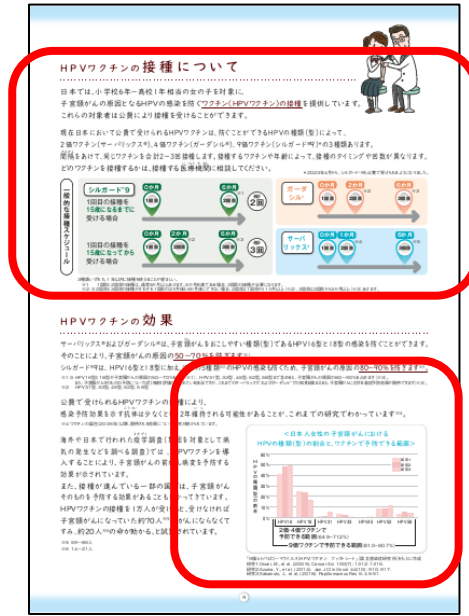
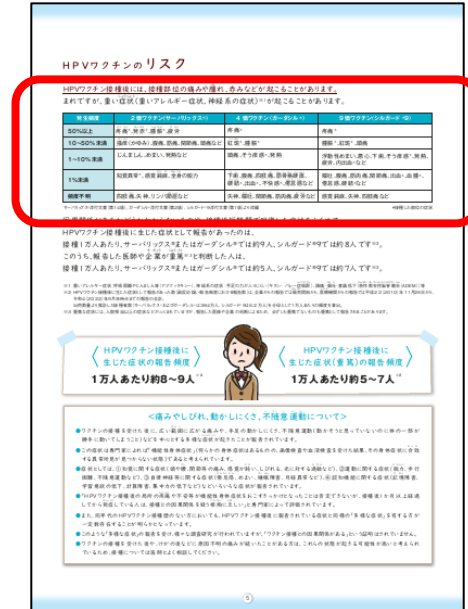
9価HPVワクチンの情報提供について（1）

○HPVリーフレット（本人・保護者向け概要版（ピンク）、本人保護者向け詳細版（水色）、キャッチアップ版（紫色）、医療従事者版（緑））について、9価HPVワクチン（2回接種）の定期接種化の情報を追記し、更新した。



本人・保護者向け概要版（ピンク）

- ＜主な改訂内容＞
- 9価HPVワクチンの効果やリスク、一般的な接種スケジュールの追記
 - 見やすさの観点からのレイアウトの変更（本人保護者向け詳細版）
 - その他、データの更新、表現の一部修正等を行っています



本人保護者向け詳細版（水色）

9価HPVワクチンの情報提供について(2)

○ 9価HPVワクチンについてのリーフレットも作成し、周知広報に活用

2023年3月作成

小学校6年～高校1年[※]の女の子と保護者の方へ

令和5(2023)年4月より
9価の「HPVワクチン」を公費で接種できるようになりました
「子宮頸がん」を苦しめないために、今からできることがあります

Q 「HPVワクチン」とはなんですか？
A HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンには、9価のワクチンのほかに、2種類のワクチン(2価のワクチン、4価のワクチン)があります。どのワクチンを接種するかは、医師にご相談ください。

Q 9価のHPVワクチン(9価ワクチン)とは、どのようなワクチンですか？
A HPVにはいくつかの種類(型)があり、9価ワクチンは、このうち9種類のHPVの感染を防ぐワクチンです。その中でも、子宮頸がんの原因の80～90%を占める、7種類のHPVの感染を予防することができます。
※11価、12価、13価、33価、45価、52価、58価

Q 9価ワクチンの接種後に副反応はありますか？
A 9価ワクチンの接種後は、右表の副反応が起こることがあります。接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、まずはワクチンを受けた医療機関などの医師にご相談ください。

あなたと関係のある「がん」があります

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,900人の女性が子宮頸がんにて亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんです。患者さんは20歳代から増え始め、30歳代までにはがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。日本では、25～40歳の女性のがんによる死亡の第2位は、子宮頸がんによるものです。
- HPVの感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを予防できると期待されていますが、ワクチンで防げないHPV感染もあります。子宮頸がんを早期に見出し治療するため、20歳になったら、2年に1回、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談
▶ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口
▶ 予防接種による健康被害救済に関する相談や、どこに相談したらよいかわからないとき
▶ お住まいの市町村の予防接種担当部門

HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚生労働省 HPV

HPVワクチンに関するより詳しい情報は、こちらをご覧ください。

お問合せ先

2023年3月作成

平成9年度生まれ～平成18年度生まれの女性へ

令和5(2023)年4月より
「HPVワクチン」の接種の機会を逃した方も9価のワクチンを公費で接種できるようになりました
※公費で接種できるのは令和7(2025)年3月末までです。希望される方は、お住まいの地域の接種会場へ行ってください。

Q 「HPVワクチン」とはなんですか？
A HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンには、9価のワクチンのほかに、2種類のワクチン(2価のワクチン、4価のワクチン)があります。どのワクチンを接種するかは、医師にご相談ください。

Q 9価のHPVワクチン(9価ワクチン)とは、どのようなワクチンですか？
A HPVにはいくつかの種類(型)があり、9価ワクチンは、このうち9種類のHPVの感染を防ぐワクチンです。その中でも、子宮頸がんの原因の80～90%を占める、7種類のHPVの感染を予防することができます。
※11価、12価、13価、33価、45価、52価、58価

Q 9価ワクチンの接種後に副反応はありますか？
A 9価ワクチンの接種後は、右表の副反応が起こることがあります。接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、まずはワクチンを受けた医療機関などの医師にご相談ください。

あなたと関係のある「がん」があります

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,900人の女性が子宮頸がんにて亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんです。患者さんは20歳代から増え始め、30歳代までにはがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。日本では、25～40歳の女性のがんによる死亡の第2位は、子宮頸がんによるものです。
- HPVの感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを予防できると期待されていますが、ワクチンで防げないHPV感染もあります。子宮頸がんを早期に見出し治療するため、20歳以上の方は、2年に1回、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談
▶ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口
▶ 予防接種による健康被害救済に関する相談や、どこに相談したらよいかわからないとき
▶ お住まいの市町村の予防接種担当部門

HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚生労働省 HPV

HPVワクチンに関するより詳しい情報は、こちらをご覧ください。

お問合せ先

シムガード®

1回目 2回目 3回目

0か月 2か月 6か月

※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後に行われる場合、2回目と3回目はそれぞれ10月以降(※2)、3回目と2回目から3か月以上(※3)あけます。

ワクチン

を

9勧めますが、医師と相談を完了することも可能です。接種した後にHPVワクチン(シムガード®)を行います。

接種が生じる場合があります。このワクチンについて、ワクチン接種によって、医療機関での治療が必要な健康被害が生じた場合は、申請し認定されると、法律に基づく救済措置が行われます。

ワクチンに関する相談先一覧

ワクチン接種後に生じた症状の診療に関する協力医療機関
※お住まいの地域の医師にご相談ください。

性感染症、その他感染症全般についての相談

予防接種による健康被害救済に関する相談や、どこに相談したらよいかわからないとき
▶ お住まいの市町村の予防接種担当部門

HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚生労働省 HPV

HPVワクチンに関するより詳しい情報は、こちらをご覧ください。

お問合せ先

厚生労働省ホームページにおけるHPVワクチンについての情報提供

- 9価HPVワクチンに関する情報等について、厚生労働省ホームページやQ&Aを通じて接種対象者や保護者、自治体、医療従事者等へ情報提供（内容は随時更新）

The screenshot shows the homepage of the Japanese Ministry of Health (厚生労働省) with a search bar and navigation menu. The main content area is titled "ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん(子宮けいがん)とHPVワクチン～" (Human Papillomavirus Infection ~ Cervical Cancer and HPV Vaccine ~). It includes sections for "一般の方向け基本情報" (Basic Information for the General Public) and "病気になるまで" (Until It Becomes a Disease). There are also links to "よくあるご質問" (Frequently Asked Questions) and "HPVワクチンに関する相談先一覧" (List of Consultation Centers for HPV Vaccine).

The infographic is titled "ワクチン接種の効果" (Effect of Vaccination). It explains that HPV is a common virus, and HPV vaccines can prevent infection. It lists the 2-valent (シルガード9), 4-valent (ガーダシル), and 9-valent (シルガード9) vaccines. A bar chart shows the percentage of HPV types (HPV16, 18, 31, 33, 45, 52, 58) that can be prevented by the 9-valent vaccine. Text states that the 9-valent vaccine can prevent 90% of HPV-related cervical cancer. It also includes a section on the "標準的なワクチン接種スケジュール" (Standard Vaccination Schedule) for the 9-valent vaccine, showing two options: 0, 2, 6 months and 0, 1, 2 months.

The screenshot shows the "よくあるご質問" (Frequently Asked Questions) section. It includes a "Q&A" section with links to "9価HPVワクチンについて" (About the 9-valent HPV vaccine) and "キャッチアップ接種について" (About catch-up vaccination). Below this is a "HPVワクチンに関する相談先一覧" (List of Consultation Centers for HPV Vaccine). The "よくあるご質問" section contains several questions and answers:

- 接種後に、健康に異常があるとき**: Information on when to seek medical attention after vaccination.
- 不安や疑問があるとき、困ったことがあるとき**: Information on where to go for support and counseling.
- HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症に関する相談**: Information on where to go for advice on other vaccines and infections.
- 予防接種による健康被害救済に関する相談**: Information on the compensation system for health damage caused by vaccines.

 There is also a "医療機関、自治体向けの情報" (Information for Medical Institutions and Local Governments) section and a "連絡・事務連絡" (Contact/Office Contact) section.



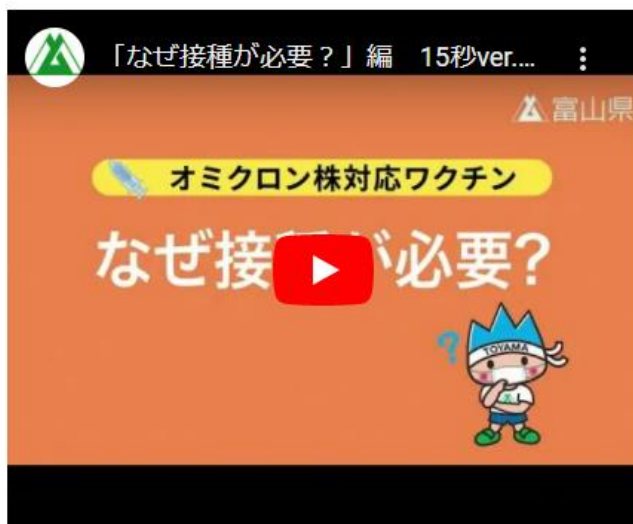
URL : <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html>

自治体における取組の例（新型コロナワクチン）

○自治体における取組として、動画やポスターによる周知広報、関係機関への働きかけ等が行われた。

○若年層への情報発信

富山県では、新型コロナワクチンの接種を促進するため、接種の効果や安全性等について、県民の皆さまに分かりやすく情報発信し、早期の接種を呼びかける県独自のPR動画を制作しています。



○ワクチン休暇取得勧奨の協力依頼、 帰省する学生等への情報提供

北海道斜里町は、町内主要事業所に対し、ワクチン休暇等の協力依頼を行い、従業員のワクチン接種の促進を図っている。また、夏休み等で町に帰省する学生に対し、町内の半数程度の方が登録しているメール配信システムやHPにより、接種枠の新設や必要な手続きについての情報提供を積極的に行っているほか、町内全体のワクチン接種の機運を高めるため、報道機関や町広報紙を活用し、接種率や一般接種開始時期などの情報発信を積極的に実施。

○若者向け啓発ポスターの制作

東京都小金井市では、市医師会がワクチン接種を積極的に推進。若者への啓発のため、市内在住の漫画家かわぐちかいじさんに依頼し、空母の艦長が「高性能ワクチンでコロナを迎撃せよ!!」と呼びかけるポスターを制作。市内500カ所に掲示。

○外国人支援団体と連携した情報発信

大阪府大阪市は、事業連携協定を締結している外国人向け求人情報を掲載する企業のホームページにワクチンに関する情報を掲載。また、大阪市民活動総合ポータルサイトに登録されている市民活動団体（活動分野：「国際協力・多文化共生」120団体）にワクチン接種の最新情報を定期的に発信するなど、外国人に対する情報発信を幅広く行っている。

経緯及び現状

- 予防接種におけるコミュニケーションについては、国、都道府県、市町村、医療機関その他の関係者がそれぞれ取り組んできた。
- 特に、新型コロナワクチンの接種に際しては有効性・安全性の周知や、科学的に正確でない受け取り方がなされうる情報への対応にも注力した。
- 新型コロナワクチン接種の経験を経て、予防接種における情報発信、リスクコミュニケーションの重要性が再認識された。



対応方針

- 予防接種におけるリスクコミュニケーションに関する取組として、引き続き、国においてもホームページやSNS等を活用した積極的な情報発信を行ってはどうか。
- 国民のワクチンに対する認識や、国民等が求めている情報を勘案した対応が重要であることを念頭に、国民が正しい知識を持った上で接種を判断できるよう、科学的に正確でない受け取り方がなされうる情報への対応も含め、国民の理解の促進に資する情報発信に努めてはどうか。
- 国との役割分担も踏まえつつ、自治体においてどのような取組を行うべきか。